

## いま本を読もう

黒川 剛 教授

(公共経営論)

「ライブラリー」への寄稿を依頼されたこともあって図書館を訪ねてみたところ、「いまどきの大学生」というポスターが張ってあり、その中に「でも、彼ら（筆者注：いまどきの大学生）は、意外にいろんな本を読んでいるし、」という一節がありました。「意外に」というところに少し引っ掛かりを感じますが、それはともかく、「いろんな本を読んでいる」のであれば、それはとても良いことだと思いますので、是非続けてほしいと思いますし、自分はその中には入らないと思う人がいれば、是非、これからいろんな本を読むようにしてほしいと思います。

自分の経験で言うと、幼いころから本を読むことが好きで暇を見つけては面白そうな本を探して、まさにいろんな本を読んでいた。分野的には歴史関係の本が好きでしたが、興味がわくようなものであればジャンルにはこだわらず、手当たり次第に読みふけていたような記憶があります。ただ、就職をして社会人になってからは、仕事が忙しいとか他にいろいろとやることが出てきてしまって本を読む時間はだんだんと少なくなってしまいました。更に、家庭を持ってからは、ご多分に漏れず、じっくり本を読む機会はますます少なくなってしまいました。もちろん社会人になれば社会人としての役割があり、結婚をして家庭を持てば、家庭人として果たすべき役割が生まれ、その結果として自分で自由に使える時間も少なくなるのは当然のことですが、現在になって振り返って思うと、もっと本を読む時間を作りたかったと思います。特に学生の頃にはいろいろな本をもっと読んでおきたかったと強く思います。

その理由の一つは、学生の頃はとにかく時間があるからです。このように書くと、学生の皆さんの中には、学生だって忙しいと思う人がいることと思います。確かに、大学の授業の予習や復習、課題などをこなさないといけないし、就職や資格試験に備えての準備などもあるでしょう。それ以外にも、部活動やサークル活動に打ち込んだりすることも、バイトや友達との付き合いなども学生生活に欠かせない重要なことだと思います。ただ、そういう中でも時間は作れるものですし、社会人になった後よりも学生時代のほうが時間を見つけやすいと思います。そして第二の理由ですが、何事にも「旬がある」と思うからです。「旬がある」とはものごとを行うには行うにふさわしい時期があるということで、本を読むにも、旬というものがあると思います。子供の時に読んで感動した小説を後になって読み返したと

きに、子供の時に受けたのと同じような感動を感じなかったという経験をしたことはありませんか。それは一度読んだことがあるため、読み返したときには新鮮味が失われてしまったためかもしれません。しかし、私の思い込みかもしれませんが、仮に初めて読む場合であったとしても、子供の時に読んだのと同じような感動が得られない場合が多いのではないかという気がします。それは本、特に小説には、それを読むのに一番ふさわしい人生の時期があるからのような気がします。そして、多くの場合、二十代前後、皆さんの年代がそれに該当するような気がします。年齢を経ていろいろな経験を積んだり、知識が付いたりすると、かえって本、小説を読んでも純粹に感動ができない、そういう風になりがちです。人生は長いから、この先本を読む機会はいつでもあると考えるのではなく、現在がその時だと思って、興味の赴くまま、本をたくさん読んでください。きっと皆さんの人生を豊かなものにしてくれると思います。